

Development of the Role Performance Scale for Middle-aged Generalist Nurses in Japan

川口, 賀津子

<https://hdl.handle.net/2324/4474992>

出版情報 : Kyushu University, 2020, 博士 (看護学), 課程博士
バージョン :
権利関係 :

氏 名：川口 賀津子

論 文 名：Development of the Role Performance Scale for Middle-aged Generalist Nurses in Japan

(日本における中高年ジェネラリスト看護師の役割遂行尺度の開発)

区 分：甲

論 文 内 容 の 要 旨

【背景】

世界の人口が急速に高齢化する中、看護の質の向上は重要な課題である。しかし、看護の提供者である看護師も高齢化し、日本では40～59歳の看護師が47%を占めている(厚生労働省、2018年)。

この年代の看護師がモチベーションを維持し、能力を発揮するためには、期待される役割を明確に示し評価することが重要であると考えた。看護実践能力の評価尺度はいくつか開発されているが、豊富な看護経験をもつ中高年ジェネラリスト看護師の役割遂行の評価尺度は見当たらなかった。

【目的】

「日本における中高年ジェネラリスト看護師の役割遂行尺度(Role Performance Scale for Middle-aged Generalist Nurses in Japan: RSMGN)」を開発し、その信頼性、妥当性を検証する。

【方法】

1. 研究プロセス

本研究は3段階で構成した。第1段階は、200床以上の病院に勤務する中高年ジェネラリスト看護師7名と看護師長7名にインタビュー調査を行った。その内容を逐語録におこし、質的帰納的に分析して「中高年ジェネラリスト看護師の役割」を抽出し尺度原案を作成した。第2段階では、作成した尺度原案について、看護管理の研究者5名と中高年ジェネラリスト看護師10名を対象に内容妥当性の検討を行った。第3段階では、第2段階で検討した尺度原案を用いて無記名自記式質問紙調査を郵送法にて行い、尺度の信頼性・妥当性の検証を行った。

2. 用語の定義

- 1) 中高年ジェネラリスト看護師：10年以上の看護経験を持つ40～59歳の看護師で、管理職や特定領域のスペシャリスト看護師ではなく、直接的に患者ケアを行う看護師。
- 2) 若年ジェネラリスト看護師：3～9年の看護経験を持つ40歳未満のジェネラリスト看護師。

3. 対象者

200床以上の病院に勤務する837名の中高年ジェネラリスト看護師と800名の若年ジェネラリスト看護師とした。男性看護師は7%と少ないため、本研究では女性看護師に限定した。

4. 分析方法

構成概念妥当性の検討のため、項目分析、探索的因子分析、確認的因子分析、基準関連妥当性の検討のため外的基準との相関係数の算出、既知グループ妥当性の検討のため中高年看護師と若年看護師の得点比較を行った。信頼性の検討のため、各因子および全体のクロンバック α 係数を算出した。分析は、SPSS.Ver25とAmos25を使用し、有意水準は $p < 0.05$ (両側)とした。

5. 倫理的配慮

国際医療福祉大学倫理委員会によって承認を受けた(承認番号:17-Ifh-32)。

【結果・考察】

インタビューによる質的研究、内容妥当性の検討を行い、36項目の尺度原案を作成した。尺度原案を用いて、全国の中高年ジェネラリスト看護師837名と若年ジェネラリスト看護師800名に郵送法にて調査を行った。中高年看護師504名分(有効回答率:60.2%)、若年看護師311名分(有効回答率:38.9%)を分析した。中高年看護師の平均年齢は47.0歳±5.1歳、経験年数の平均は23.5±6.1年であった。若年看護師の平均年齢は28.4±3.2年、経験年数の平均は6.2±2.1年であった。

尺度原案36項目について、項目分析後に探索的因子分析(主因子法・プロックス回転)を行った。因子負荷量などから11項目が削除され、最終的に25項目5因子が抽出された。因子負荷量の高い項目の意味内容から、5因子は「看護師長のバックアップ」「若年看護師への非公式なメンターとしての実践指導」「若年看護師への精神的支援の提供」「患者・家族への共感的支援の提供」「チーム医療の調整」と命名された。「看護師長のバックアップ」は、中高年ジェネラリスト看護師が看護師長の年齢に近く、またスタッフ看護師とは同僚として同じ立場のため、両者の関係を調整しながら看護師長をバックアップしていると推察された。「若年看護師への非公式なメンターとしての実践指導」は、日々の看護業務において若年看護師の経験と実践力に合わせたOJT(On the Job Training)が実施されていると考えられる。「若年看護師への精神的支援の提供」は、特に学生から看護師への移行時に多くの課題が生じ不安を伴う中で、経験豊富な中高年看護師の精神的支援は重要と考える。「患者・家族への共感的支援の提供」は、豊富な人生経験と看護経験で培った共感的態度とコミュニケーションスキルにより、患者や家族のニーズを掴み、サポートしていると考えられる。「チーム医療の調整」は、看護師が患者と医療スタッフの間に橋を架け、多職種の協働を調整するためには経験豊富な中高年看護師の調整力とコミュニケーションスキルは非常に役立つと考えられる。次に確認的因子分析のための共分散構造分析では、GFI = 0.907・AGFI = 0.886・CFI = 0.945・RMSEA = 0.054であり、適合度の基準を満たし構成概念妥当性が確認できた。看護職者の職業経験の質評価尺度との相関係数は0.58と中等度の相関が認められ、基準関連妥当性が確認できた。マンホイットニーのU検定による若年看護師との得点比較でも中高年看護師の得点が有意に高く、既知グループ妥当性が確認できた。クロンバックの α 係数は、全体で0.94、各因子は0.72~0.91の範囲であり、累積寄与率も65.8%を示したことからRSMGNの信頼性が確認された。

また、国内外の質的研究で示された中高年看護師の役割とRSMGNは共通する部分が多く、中高年ジェネラリスト看護師の役割遂行を適切に評価できると考えられる。さらに、既存の看護実践能力尺度の項目やICNコンピテンシーフレームワーク項目は、年齢や経験を反映されておらず、どの年代にも通じる抽象度の高い表現であるが、RSMGNは、年齢や経験を考慮し具体的な行動レベルを項目に示している点で新規性があり、実用的に使用可能な尺度であると考えられる。

研究の限界として、RSMGNは日本人看護師を調査対象として開発されたため海外で使用できるか調査する必要がある。また、200床以上の病院で働くジェネラリスト看護師に調査を行ったため、今後は、中小規模の病院で働く中高年看護師におけるRSMGNの適用可能性を調査する必要がある。

【結論】

5因子25項目からなる「日本における中高年ジェネラリスト看護師の役割遂行尺度(RSMGN)」は、十分な信頼性と妥当性を有することが確認された。中高年ジェネラリスト看護師は、RSMGNを活用して自己の看護実践を評価することができる。また看護師長は、中高年ジェネラリスト看護師の役割遂行を評価し、継続的な教育を支援することができる。